

# 平成 27 年度 広島県生物多様性普及員 人材育成講座（自然再生編）第 5 回講座終了

## 1 第 5 回講座は、最後の実践型観察会

秋晴れの爽やかな気候となった平成 27 年 10 月 4 日（日）に第 5 回講座を開催し、10 名が出席しました。今回は、親子を対象とした実践型観察会（3 回シリーズ）の最終回として、会場である霧ヶ谷湿原（山県郡北広島町八幡）で秋の植物観察を行いました。



観察会の参加者は、広島市内を中心に公募した親子など 17 名（子ども 11 名、保護者 6 名）で、広島駅からバスに乗り、集合場所である「高原の自然館（北広島町八幡）」へやってきました。開始時間は 10 時でしたが、予想以上にバスの到着が早まったため、早々に観察会をスタートしました。

オリエンテーションとして、主催者を代表して（株）無垢～ムーク～の道原さん、広島県自然保護課の神川課長にあいさつをいただき、本日の講師である和田秀次先生を紹介しました。また、簡単なタイムスケジュールを説明した後、早々に霧ヶ谷湿原へ移動しました。

## 2 花と実に着目して湿原を探索



まずは、しっかり秋の植物を観察してもらうために、夏の植物観察と同様に「見る」トレーニングを行いました。今回は、写真の絵本「虫のかくれんぼ」を使い、写真からカモフラージュしている昆虫を探します。「ここにイモムシがいる！」「1 匹、2 匹、3 匹… たくさん隠れてる！」など、子どもたちは一生懸命絵本を見て隠れている昆虫を発見し、見るトレーニングを完了しました。

参加者 17 名を 4～5 名程度の小グループに分けました。4 つのグループができ、それぞれのグループに 1～2 名の講座受講生を、グループサポーターとして配置しました。受講生には「グループメンバーの安全管理」と「子どもたちとの接し方を学ぶ」などの役割が与えられました。また 10 名の受講生のうち 4 名には運営側のスタッフとしての役割が与えられ、「活動範囲内の安全管理」「子どもの動き方、反応を学ぶ」などを体験しました。

いよいよ植物の観察です。講師が全員を連れて歩くのではなく、各グループに指令を出して、その指令をクリアする「指令方式」による植物観察を行いました。今回の指令は



「白系の花や実」「赤系の花や実」「青系の花や実」「黄色系の花や実」とし、それぞれに該当する植物を探して、可能な限りたくさんの種類をデジカメで撮影するという形で行いました。何種類の植物が撮影できるか、各グループに目標を聞くと「8種類」「10種類」「24種類」「50種類」と、さまざまな目標となりました。

観察の方法を確認し、全員で危険な生き物（ウルシやツタウルシ、マムシ、ハチなど）を確認しました。出発しようとしたとき、集まっていた広場に大きなナメクジを発見！家の周りで見るとは違い、その大きさにびっくり！みんなで動き方やナメクジの体を観察しました。



準備ができたグループから順次、霧ヶ谷湿原の植物観察へ出発です！

霧ヶ谷湿原の木道を歩きながら、目を皿のようにして花や実を探します。霧ヶ谷湿原では、ずいぶん涼しさが増しており、花の種類も少なくなりましたが、「白い花、発見！」「さっき撮ったものと一緒にじゃね」「これは何色だろう？」など、メンバーで相談しながら写真を撮っていました。天気も良かったため、じっくり時間をかけて観

察と撮影ができたためか、グループごとに撮影した写真を確認すると大変なことが！全てのグループで30枚以上の写真を撮影しており、最多枚数はなんと53枚もの写真を撮っていました。グループで相談し、同じ種類やピントがぼけているものなどを削除する作業を行った後、スタッフがデジカメを回収してフィールドでの観察を終了しました。



### 3 湿原からの帰り道にも植物観察を実施

あまりにも天気が良かったので、湿原から高原の自然館に帰る際にも植物観察を行いました。

和田先生に、タンポポの綿毛やススキの穂を使って、植物の種の飛ばし方の工夫を解説してもらったり、ヌルデの実に付着していた塩をなめたり、サロメチールと同じにおいがするヨグソミネバリ（正式名称：ミズメ）の葉っぱのにおいを嗅いだり、「味覚」「臭覚」などの五感



で感じながら観察が行われました。

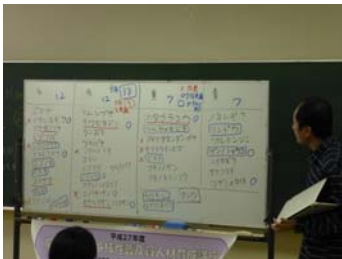


途中、アオダイショウの抜け殻を発見！爬虫類に詳しいスタッフの奥山さんに、「ヘビの皮は、みんなが靴下を脱ぐのと同じようにして脱ぐんだよ」と教えてもらいました。私たちが見ているヘビの皮は、実際には裏返しになっているということにみんな驚いていました。

### 4 撮影した写真を使って湿原の植物を解説

午後は、会場を「芸北文化ホール」に移し、各グループが撮影した写真を使って、秋の湿原の植物の解説を行いました。

各グループが撮影した写真をスクリーンに映し出し、和田先生からその植物のお話を聞きました。指令に基づき、それぞれ「白系の花や実」「赤系の花や実」「青系の花や実」「黄色系の花や実」の区分をしながら整理していきました。



今回の観察会では、38種類の植物と1種類のは虫類

(抜け殻)、1種類の軟体動物の40種類の生物を見ることができました。そのうち、夏の観察会で見られたものは9種類、外来種は8種類でした。



和田先生からは、季節によって見られるものが違うこと、同じ植物でも時期によってその姿が変わること、そして何より湿原特有の植物がたくさん見られたことを教えていただき、改めて霧ヶ谷湿原の多様性を感じることができました。

## 5 表彰式とふりかえり



今回の観察会では、より多くの種類の植物の写真を撮ったグループを表彰しました。第1位のグループは27種類の植物を撮影しており、最低でも18種類の植物が撮影されていました。第1位から順に景品であるおやつ（キャンディやおせんべい、クッキーなど）を選び、大人も含めメンバー全員で仲良く分けました。

観察会参加者と受講生全員に、ふりかえりシートを使って今日1日のふりかえりを行いました。子どもたちからは「花の色がすごかった」「いろいろな花の種類がわかって良かった」「夏とは全然風景が違った」「ヘビの抜け殻を見られて良かった」などの感想が聞かれました。一方、保護者からは「花の種類の多さに驚いた」「エゴノキなど、食物にまつわる話がきけたのがうれしかった」「多くの種類の植物で成り立っているのだと改めて感じた」などの感想が聞かれました。



グループサポーターとなった受講生からは、「子どもたちの興味の対象や集中力の持続時間を、大まかに知ることができた」「観察の仕方、まずテーマを与えて課題にする手法を学んだ」「人とのつながりを感じさせるものが多かった」などの感想が聞かれました。運営スタッフの受講生からは「安全管理面での配慮点や時間配分の重要性を学んだ」「視て教えるよりも、食べる・匂いがあるなどの方が子どもの食いつきが良い」「子どもたちの注意を引き付けるために、臨機応変にスケジュールを変更していた」な

などの感想が聞かれ、観察会の参加者では決して気付かない点に気付いたようでした。

恒例となった「漢字1文字による感想」では、「快」「学」「鮮」「感」「混」「食」「追」「観」「達」「様」などさまざまで、それぞれに得るもの・考えるものがあつたようでした。

観察会の最後にサプライズとして、参加してくれた子どもたちには「モリアオガエルのストラップ」を、保護者には「高原の自然館のマップ2種類」をプレゼントしました。夏の観察会から全て参加した子どもたちは大喜び！今回の改札会の中でも良い記念になったことでしょう。ちなみに、モリアオガエルのストラップは、本事業のスタッフでも有り、ストラップ制作の監修として関わった奥山さんからご提供いただきました。ありがとうございました。

講座も残すところあと2回になりました。次回は森林の多様性に関する講義と、生物多様性を伝える事例紹介を行います。「私は生物多様性をどのように伝えるのか」を考えるきっかけとなります。乞うご期待！！

【作成】株式会社無垢～ムーク～（三原市久井町江木 1611-1）

【発行】平成 27 年 10 月 9 日